

設楽発掘通信

No.89
令和7年
1月号

今年度の発掘調査が完了しました！

昨年11月から始まったハラビ平遺跡の発掘調査は、今年1月に完了しました。この遺跡では、今回初めて広い範囲を掘り下げる本発掘調査Bを実施し、主に二つの時期の生活の跡を確認しました。

一つは縄文時代前期末ごろ（約5500～6000年前）で、たてあな竪穴建物跡が1棟見つかりました。詳しくは裏面で解説しますが、この発見により、この時期に人が住んでいたことが判明しました。

もう一つは平安時代で、中でも10～11世紀ごろの遺物が出土する土坑（穴）どこうが見つかりました。

これらの時期の遺構や遺物は、近くに存在する胡桃窪遺跡くるみくぼでも見つかっています。

設楽町内では来年度も調査が予定されています。今後とも埋蔵文化財保護へのご理解とご協力を、どうぞよろしくお願い申し上げます。

（河嶋優輝）



ハラビ平遺跡 今年度調査対象地 空撮写真（上が北）

ハラビ平遺跡で発見された^{たてあな}縦穴建物跡

今回の調査で発見された縦穴建物跡は、山から川へ下っていく斜面を掘り込んで作られています。建物跡の形はやや歪んでいますが円形に近く、直径は5mほどです。

この建物のある付近の地面には、数cm〜数十cmのゴツゴツした石が多く含まれています。そのためか、地面を掘った後に、石の少ない土を中に貼って床や壁を覆っているよう

うです。暮らしやすくするための工夫の一環と思われるかもしれません。

建物跡からは縄文土器と石器が出土しました。土器については、その文様から、多くが縄文時代の前期末頃のものと思われるので、この建物跡もその頃のものと考えています。ただ、少数ですが



縦穴建物跡（床面まで掘り下げた状態）

前期より古い早期のものや、前期より新しい中期のものも含まれるようです。

石器では、黒曜石^{こくようせき}で作った

石鏃^{せきぞく}のほか、数mm程度の微細な黒曜石の破片^{びさいはいくへん}（微細剥片）

が出土していることが特徴です。これは黒曜石製品の製作や補修の際に発生するもので、この建物内で黒曜石の加工が行われていたことを示す遺物といえます。（河嶋優輝）



黒曜石の石鏃^{せきぞく}（写真中央）と微細剥片

設楽発掘通信 No.89

令和7年1月号

編集・発行 公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団

愛知県埋蔵文化財センター

8-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802の24

（0567）67-4161 【管理課】4163 【調査課】

ページ <http://www.maibun.com>

book <https://www.facebook.com/maibunaichi>

Twitter https://twitter.com/aichi_maibun



印刷・協力 株式会社文化財サービス